

蔵王山

○概況

火山活動は静穏な状況が続いています。

- ・9月9日、14～15日に現地観測を行いました。平成7年、平成12年に実施した現地観測と比べて変化なく、静穏な状況が続いています。

現地観測の結果

丸山沢噴気地帯、火口湖御釜（おかま）、傾城岩（けいせいいわ）変質地帯及び被川（はらいがわ）上部変質地帯の現地観測を行いました。

・丸山沢噴気地帯

噴気温度は95℃で、平成7年（108℃）と平成12年（97℃）の結果と比べてもほとんど変化はありませんでした。

・御釜周囲

御釜周囲の赤外熱映像装置による撮影を行いました。地熱異常域は見られませんでした。また、湖水の変色などは観測されませんでした。

・傾城岩変質地帯と被川上部変質地帯

これらの変質地帯では、冬期間に着雪していないとの情報がありました。今回赤外熱映像装置による撮影を行いました。地熱異常域は見られませんでした。

・火山ガス

丸山沢噴気地帯及び被川上部変質地帯の付近では、硫化水素ガスと見られる腐卵臭がしましたが、警報器の作動しない濃度（二酸化硫黄（2ppm以下）、硫化水素（30ppm以下））でした。

赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する機器であり、熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。



図1 現地観測点

- ：丸山沢噴気地帯
- ：御釜周囲
- ：傾城岩変質地帯
- ：被川上流部変質地帯

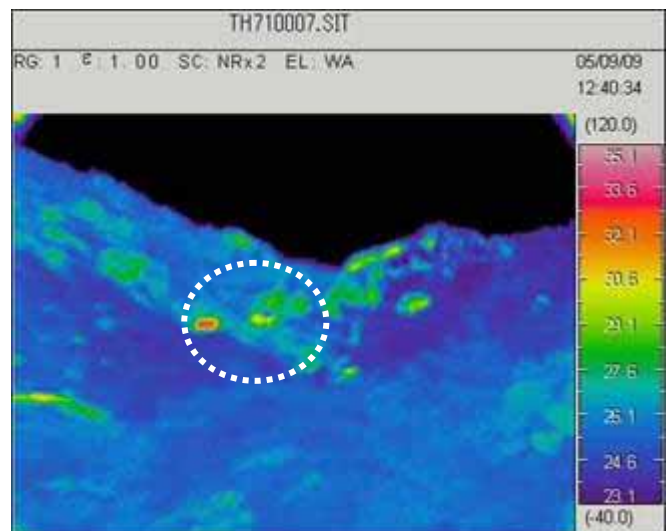


図2 丸山沢噴気地帯の可視画像（左）と赤外熱映像画像（右）（平成17年9月9日撮影）
破線内は噴気地帯を示す。

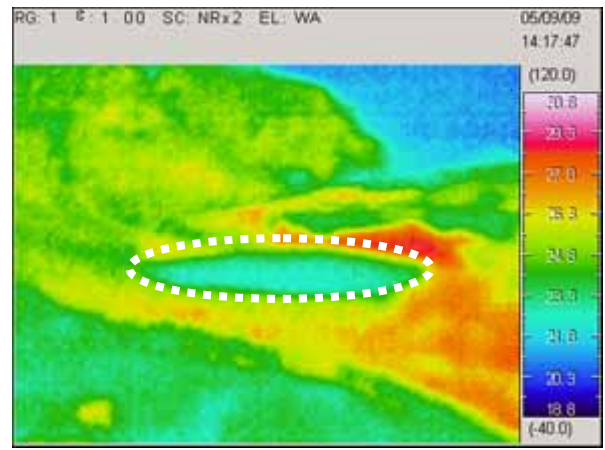


図3 火口湖御釜及びその周囲の可視画像（左）と赤外熱映像画像（右）
（平成17年9月9日撮影）
破線内は湖面を示す。湖の周囲にある高温部は日射による影響である。

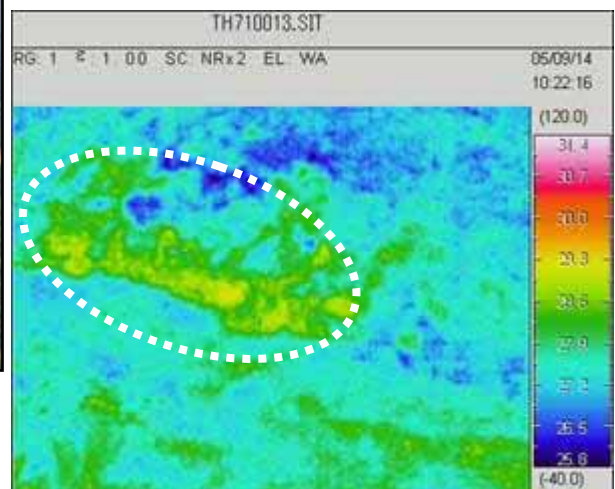


図4 傾城岩変質地帯の可視画像（左）と赤外熱映像画像（右）
（平成17年9月14日撮影）

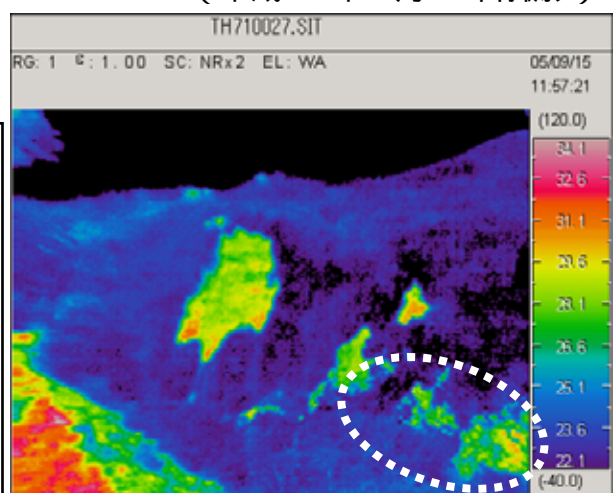


図5 袈川上部の変質地帯の可視画像（左）と赤外熱映像画像（右）
（平成17年9月15日撮影）